

文章の始まりが見えないときは下に少しスクロールしてください。



---

## 大山みちと富士橋

阿久和川を上流に向かって二番目の橋を「富士橋」という。

阿久和川と交差する道を「県道瀬谷柏尾線」といい、その一部を通称では「大山みち」という。「大山みち」という古道は各所にあるが、この「大山みち」は東海道の不動坂を起点とし、相模新橋からいったん和泉へ出て、長後、用田、戸田、厚木、伊勢原へと向かい大山登山口に至



不動坂のお不動さん(柏尾町)

る道である。

起点の不動坂には、大山みち道標と地名の由来となった不動堂が建っている。

また、地元柏尾には、いまでも大山講が受け継がれ、熱心な講中の人々が時折大山詣をしているそうである。

ところで「大山みち」の本道ともいべきルートは、江戸赤坂御門から大山に至る道で、具体的には、赤坂御門～三軒茶屋～二子玉川～梶ヶ谷～鷺沼～在田～青葉台～長津田～さがみ野～厚木～愛甲石田～石倉橋～追分～大山山頂という順路である。

このルートはほぼ現在の国道246号線に沿っていて、その昔は「矢倉沢往還」という東海道の脇往還の一部であった。

「大山みち」の由来であるが、江戸時代中期から江戸庶民の間で大山は信仰の山として大山詣が盛んになり、お参り方々庶民の娯楽観光も兼ねた道として栄えたといわれている。

大山は、頂上の阿夫利神社に詣でる参詣人と、同時に標高1,252メート

ルという比較的手軽な山ゆえ、ハイキング気分の登山客等に現在でも人気のある山である。

余談であるが、私ミスターKは、60年くらい前に初登頂し、以後5～6回登ったことがある。その中で約32～3年前一度家族5人で登ったこともある。

次女が、まだ2～3歳のころで、なんと歩けない次女をおんぶして、大山山頂を経由して日向薬師方面へ縦走した。

いまでは、私の身一つでも難儀なことでよくやったもんだと、もはやかなわぬ夢と昔を懐かしむ歳になってしまった。

さて「富士橋」であるが、富士橋から横浜新道のガードをくぐった左手の小高い山に山号を「ふじやま」という「正福寺」なる臨済宗円覚寺派の寺がある。

この小高い山を土地の人は「ふじやま」と呼んでいる。いまはともかく昔は富士山がよく見えたところだったのであろう、そんなことから「ふじやま」の袂にある橋なので「富士橋」となったのではなからうか。

ついでなので「ふじやま」に触れておく。実をいうと、この「ふじやま」という場所は各所に点在している。

私ミスターKの事務所のある場所（戸塚区品濃町881）も昔は「ふじやま」といわれた山であった。

いまは区画整理が施されその面影はないが山の上には「富士講碑」があり裏面には地元の人が組んだ富士講中の人達の名前が刻まれていた。

地元の人からは「お富士やま」の名で親しまれ、講中の人達が聖地として崇め、この小さな山に登ることにより富士山の浅間神社にお参りしたと同様の功德があるとされてきた。くだんの「富士講碑」は現在品濃 白旗神社の裏山に鎮座している。

身近にある同様な場所は汲沢3丁目汲沢小学校の近くにある「富士浅間神社」の小丘。泉区の下和泉にある「富士塚団地」。保土ヶ谷の「富士塚」などなどで、いずれにも「ふじやま」という場所ないし「ミニ富士山」があり手軽に富士山参りをすることができる。

このような習俗は一種の代参であり下倉田の永勝寺などに見られる「お砂踏み」なども、その碑を一回りすることにより「四国八十八箇所」参りを済ませたと同様の功德が得られるというインスタント参りの風習である。

ついでが長くなってしまったが本線に戻ると「富士橋」には別に「猿

橋」「石橋」の名もあるようだ。うち「猿橋」については、甲州（山梨）の猿橋に因んだもので、昔の甲州商人が甲州から鎌倉に商いに行くのに八王子街道とも呼ばれたこの道をよく利用した。ある時、この八王子街道にかかるこの橋が大雨で流されてしまい、土地の人が難儀をしていた。これを見た甲州商人が地元の猿橋を架け替えた時に出た古材を届けてくれ、その古材を利用して無事架け替えができたところから、いつしか、この橋を猿橋と呼ぶようになったそうである。

---

## 丹後山と神明社

県道瀬谷柏尾線の上矢部バス停から工業団地方面へ少し入った辺りを字篠塚という。稲荷谷少年スポーツ広場とフィットケアデポ上矢部店の間をすこし行くと小川に突き当たる。ここを左に入ると右側にかわいい鳥居があり小橋を渡って石段を上がると「神明社」という神社がある。

この背後の山を地元では丹後山と呼んでいる。

その由来は鎌倉幕府を開いた源頼朝にまつわる話で「戸塚区郷土史」の記述を拝借すると、頼朝は今でいうかなりの女たらしで恐妻北条政子の目を盗んでは各所に複数の妾をもっていたようである。

その中に丹後局という美しい娘がいたのであるが、ある時その存在が奥さんの北条政子にばれて丹後局は鎌倉を追放されてしまったのである。丹後局は、いずこともなくさまよい、ある日ここ上矢部まで来た時、日も暮れて土地の農家に一夜の宿を求めたのであるが、いずこにも断られ、やむなく近くにあった無人の小屋で休むことにした。たぶんどこぞの農家の粗末な物置小屋だったのであろう。

しかし、その時すでに頼朝の子を身ごもっていた。折悪しく俄かに産気づき途方にくれていると闇夜に無数の狐火がともしり明るくなり無事男児を産み落としたのである。夜も明け、村人が誰もいないはずの小屋から赤子の泣き声がするので不思議に思い訪ねたところ昨夜の娘だったので事情を聞くと、頼朝の愛妾丹後の局であると言う。

びっくりした村人達は見晴しのよい山の上に一字を建て娘を住まわせることにした。その一字を建てたところを後年「丹後山」と呼ぶようになったのである。

この話には後日談があり、その時産み落とした男児が成長して島津三郎と名乗り九州薩摩の祖になったという凄い話である。

鎌倉八幡宮の東に大蔵というところがある。ご存じの方も多いと思うが、そこに伝源頼朝の墓という廟所がある。その右隣の山裾の中腹に伝大江広元の墓に並んで伝島津忠久の墓ないし供養塔がある。

ミスターKは、前からなぜこんなところに島津の墓があるのかと不思議に思っていたが、ここ丹後山でその謎が一挙に解けたのである。

丹後局がここで産み落とした島津三郎がのちの島津忠久で頼朝が自分の子である忠久を九州薩摩の守護地頭に抜擢したというのがそのストーリーだと思われる。ただし伝説なのでその真偽に確証があるものではない。

忠久を祖とする島津家は代々、薩摩・大隅・日向三ヶ国の守護に任せられ爾来この地方の守護大名・戦国大名となり幕末まで九州の雄藩として君臨してきた名家である。

先年のNHK大河ドラマ「篤姫」は、薩摩藩第11代藩主島津斉彬の養女として徳川第13代将軍家定に嫁がせた物語である。

余談であるが大江広元とは平安時代末期から鎌倉時代前期の朝臣で源頼朝の側近となった文官である。

鎌倉時代初期幕府の政所別当となり、鎌倉幕府内で辣腕を奮った実力者で主に朝廷との交渉事に長けていた。

子孫にも有能な人物を数々輩出しているが特に四男毛利季光の子孫・毛利時親は安芸吉田庄を相続し戦国大名安芸毛利家の始祖となり、後年毛利元就という傑物を生み出した。厚木に毛利台という地名があるが、元を質せば大江広元の所領だったところで毛利氏ゆかりの地である。

前にも触れたことがあるが鎌倉幕府の守護地頭から戦国大名に出世した例として小田原の大友をルーツにした大友氏に与えられた所領が豊後、今の大分県辺りで、その末裔が戦国のキリシタン大名大友宗麟である。もう一人、同じく小田原の早川を出自とする土肥実平の子孫が安芸国沼田荘の地頭になり、その末裔が安芸の豪族になった小早川氏である。